競技に関する注意事項

1　競技会全般に関して

1．本大会は２０２５年度日本陸上競技連盟競技規則および、本大会申し合わせ事項により実施する。また、競技者は日本陸連「競技会における広告及び展示物に関する規定」を適用し、違反する場合は注意を行う。本大会のスタート動作における競技規則は、国内ルールを適用する。

2．各団体代表者(学校については引率教員)は、競技の招集開始時刻までに団体受付を済ませておく（受付がない場合、競技者は競技に出場できない)。

3．競技場の開門は７：３０を予定している。ただし、準備の状況により前後することがある。

4．招集所、招集時間について

(1) 招集所は、１階正面玄関ウッドデッキに設ける。

(2) 招集時間は、タイムテーブルに記載されている時間とする。出場種目が重複し、競技中に招集時間が設定されている場合は、最初の招集の際に申し出る。

5．事故・怪我の発生について

主催者は、競技会中やウォーミングアップ中などに発生した事故・怪我について、応急手当は行うがその責任を一切負わない。

6．ウォーミングアップについて

(1) 本競技場

本競技場内でのウォーミングアップは**競技および運営に支障のない範囲**で行うことができる。ただし、**競技中の選手に助力となるような行為やホームストレート、インフィールドでのウォーミングアップは禁止**とする。

競技開始前のウォーミングアップについては、**準備が完了した後、第１種目開始 15 分前まで**行うことができる。

(2) ウォーミングアップ場［野球場］

①終了時刻は最終種目招集開始時刻までとする。

②跳躍練習、投擲練習、スパイクを利用しての練習は実施できない。

③他人の怪我につながる可能性のある行為はしない。

(3) 施設内のジョギングコースなどについて

他の利用者や通行車両などに迷惑をかける行為は行わない。また、事故が無いように注意する。事故が発生した場合は、速やかに本部に連絡すること。

7．施設設備の使用について

(1) １階正面玄関ウッドデッキを控え場所として使用しない。（緊急時には、避難場所として使用する。）

(2) 今大会では競技終了後の清掃当番をおかない。各自で出したごみは必ず持ち帰ること。近隣のゴミ箱等に捨てることはしない。

8．写真及びビデオ撮影について

(1) 撮影をする際には本部にて200円を持参し、撮影許可証を受け取る。ただし、団体関係者については団体関係者と識別できる服装（団体名が明確に明示されている服装）であれば撮影を認める。

(2) 撮影許可証は必ず、周囲の人物から常時確認できるように、首からさげる。

(3) 本人及び保護者の了承がない撮影を禁止する。

(4) 下記のエリアはどのような人物であっても撮影禁止とする。

・グラウンドレベルでの撮影

・各種目のスタート後方
・走高跳、棒高跳、走幅跳の助走後方と着地前方
・走高跳のマットに向かった正面（クリアランス動作中）

(5)スターティングブロックの足合わせを行っている間や試技を待っている間、身体を動かしている間など競技の準備を行っているときは撮影禁止とする。

(6)他者に著しく迷惑をかける行為と主催者が判断する場合は、速やかに警察及び関係機関に連絡をする。

(7)撮影終了後は、撮影許可証を本部へ返却し、保証金２００円を受け取る。

(8)撮影している状況によっては、撮影したものを主催者が確認することがある。

９．控え場所について

前日（７／１９）に西三河高等学校学年別大会が行われます。この大会は各校の控場所指定で実施される予定です。そのため、本大会の控場所に前日の影響が残ることをご理解ください。

２　競技に関して

１．アスリートビブス（ナンバーカード）について

(1) ユニフォームの胸、背に確実につける。ただし跳躍競技は、胸または背につけるだけでもよい。
トラック競技は、招集時にレーンナンバーによる「腰ナンバーカード」を貸与する。ランニングパンツの右横やや後方に、明確に数字が読めるようにつける。

(3) 長距離種目・４×４００mRにおいては、腰ナンバーカードを両腰につけることもある。

(4) 腰ナンバーカードは、フィニッシュ後直ちに係員に返却する。

２．競技の番組編成について

トラック競技の走路順・フィールド競技順は、プログラム記載順とする。

３．競技用靴について

(1) 競技に使用できる競技用靴の靴底の厚さは、次の表に示すとおりとする。規格に合うもので競技を行うこと。ただし、フィールド種目については本規定を適用せず実施する。記録は国内の公認記録として認められるが、WAへの申請は行わず、国際競技会への参加資格として採用できない。

種目	靴底の 最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20㎜ スパイクシューズ または ノン・スパイク シューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20㎜ スパイクシューズ または ノン・スパイク シューズ	全跳躍種目で、競技用靴に関する規定(WA:C2.1A)に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの75%にある靴の中心点。 踵の中心は、靴の内部の長さの12%にある靴の中心点)。
道路競技　（競走・競歩）	40㎜	リレーにおいては、各走者が走る距離に 応じて適用する。

(2) 審判長の判断により。競技終了後に靴底の厚さを計測することがある。計測の結果、違反が認められた場合はその競技者を失格とする。

(3) 全天候走路なので、トラック・フィールド共スパイクのピンの長さは 9㎜ 以下とする。ただし、走高跳およびやり投は１２㎜ 以下とする。いずれの場合も本数は１１本以内とする。

４．400m までのトラック競技では、フィニッシュした後も他の競技者の安全確保のために、自分に割り当てられたレーン(曲走路)で減速し止まる。

５．リレーのオーダー用紙については招集完了３０分前までに招集所へ提出すること。

６．走高跳の競技開始の高さは男子１５０ｃｍ・女子１２０ｃｍとする。

７．三段跳の踏切版の位置については、男子１１ｍ、女子９ｍとする。

８．競技器具について
原則として競技場備え付けのものを使用する。

３　会場図について